

常置型活線絶縁診断装置

新製品

形式: LISSA-1500

概要

ケーブルを長期間使用すると・・・

水トリ



絶縁体異物
欠陥
半導電解面不整
+
水の浸入



地絡
事故

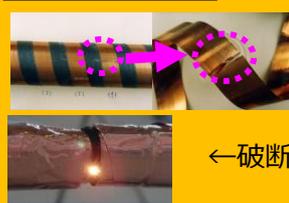


事故を未然に
防ぐために

ケーブルの保守・点検

シース絶縁抵抗の
測定

遮へい層破断



負荷変動,
シュリンクバック 等

←破断部からの放電



火災

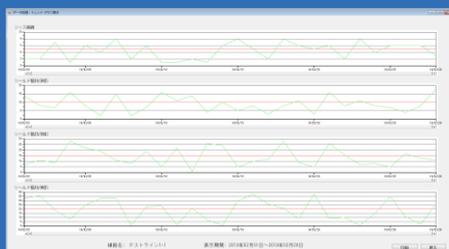


遮蔽層抵抗の
測定

特長

- 6600V受電の需要家にも適用可能
- E-TやE-Eタイプの新しいケーブルの診断と
トレンド管理を開始するのに有効
- LILIA-150T(別売)と一緒に導入することで
シース不良点を活線で探知可能
- 環境ノイズの影響を受け難い
- コントローラーで設定しておけば無人で
定期的に測定可能

自動定時測定機能
により、設定された
時刻に全線路の
自動測定を繰り返し、
データ管理を行う
ことができます。



形式: LISSA-1500

常置型活線絶縁診断装置

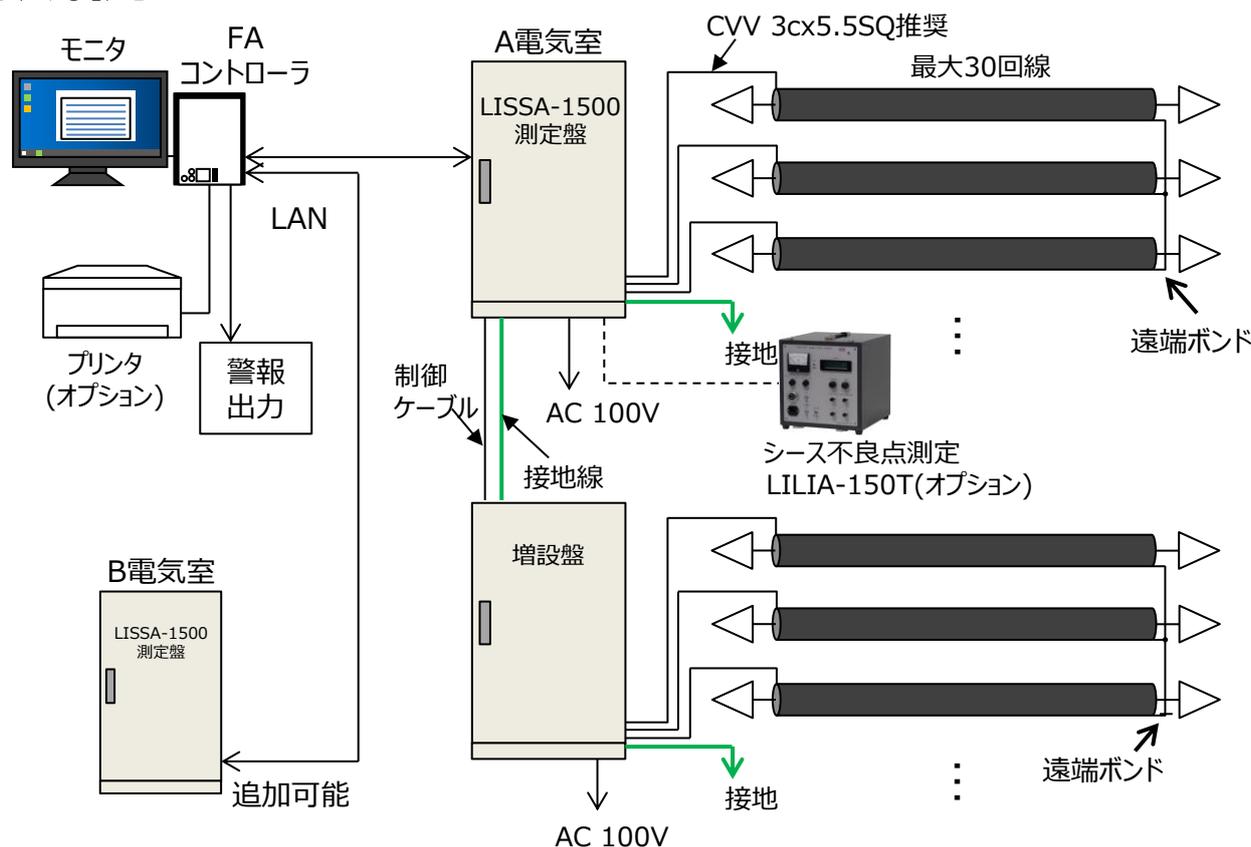
形式: LISSA-1500

仕様

形式: LISSA-1500

	活線シース絶縁抵抗測定機能	活線遮へい層抵抗測定機能
測定範囲	0.1k Ω ~99.9M Ω	0.1 Ω ~9.99k Ω
測定電圧	DC 48V	DC 12V
測定分解能	0.1k Ω	0.1 Ω
測定確度	$\pm 2\%$ of rdg ± 3 dig.	$\pm 2\%$ of rdg ± 3 dig. (ループ抵抗測定時, 1 Ω 以上)
入力切替方式	オーバーラップリレーによる切替方式	
回線数	20回線	
電源	AC 100V	
寸法	800W \times 1950H \times 400D(mm) (突起部含まず)	
重量	約200kg	

構成例



各相の遮へい層に商用電圧接地用コンデンサを接続し、直流電圧を印加してケーブルシースの絶縁抵抗と遮へい層抵抗を測定します。

※ 本装置の測定対象ケーブルは、3.3kV・6.6kV CVTケーブルおよび単心CVケーブルです。
3心CVケーブルでは、遮へい層抵抗の測定はできません。

お問い合わせ: 株式会社フジクラ・ダイヤケーブル 技術部 熊谷技術グループ
〒360-8912 埼玉県熊谷市新堀1008 TEL: 048-532-2314 FAX: 048-532-6325